

4年 国語科（書写）学習指導案

授業者 大阪市立中津小学校 荒武 まゆみ

1. 日 時 令和7年11月11日（火）第5校時（14:00～14:45）

2. 学年・組 第4学年1組（在籍27名）

3. 単元名 平がな（折れ）「らん」（光村図書4年）

4. 単元目標

○毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、筆圧などに注意して書くことができる。

（1）毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、筆圧などに注意して書いてい
る。 [知識及び技能]

（2）毛筆で「らん」を書写するなかで、平仮名の筆使い（折れ）を確かめ、ほかの平仮名に生
かすことができる。 [思考力、判断力、表現力等]

（3）進んで平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、学習課題に沿って折れをもつ平仮名を書
こうとしている。 「学びに向かう力、人間性等」

5. 単元間の関連と系統

前々単元（2年9月）

学習材
「おれ」のほうこう
点画（おれ）の方向に注意し
て、文字を正しく書くことが
できる。（硬筆）

前単元（3年6月）

学習材
おれ「日」
毛筆を使用して、折れの書
き方への理解を深めて書く
ことができる。

本単元（4年10月）

学習材
平がな（折れ）「らん」
毛筆を使用して、平仮名
の筆使い（折れ）への理解を
深め、筆圧などに注意して
書くことができる

6. 単元で取り上げる言語活動

- ・教科書p.16の2つの「ん」を見て、整っているのはどちらかを話し合う。
- ・「折れ」と「折り返し」の筆使いについて話し合う。
- ・既習の平仮名で「折れ」と「折り返し」の筆使いについて話し合う。

7. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）を理解している。</p> <p>② 筆使い（折れ）の筆圧などに注意して書いている。</p>	<p>① 毛筆で「らん」を書写するなかで、平仮名の筆使い（折れ）を確かめ、ほかの平仮名にどのように生かすか考えている。</p>	<p>① 学習したことを生かして書いた文字を見直し、平仮名の筆使い（折れ）に気を付けて、進んで書こうとしている。</p>

8. 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、低学年から文字をていねいに書くように言葉がけをしているため、文字をていねいに書こうとする姿が見られる。「相手を意識して文字を見やすく、ていねいに書けていますか」というアンケートでは、最も肯定的な回答が36%、肯定的な回答が56%と、いつでも相手を意識して丁寧に書くことができる児童が増えてきている。その一方で、「書写で付けた力を他の学習に生かせていますか」というアンケートに最も肯定的な回答が24%、肯定的な回答が52%、否定的な回答が24%と、新出漢字の練習をする際には丁寧に書くことができるが、普段のノートや作文などは雑な文字になってしまふ児童がまだ多い。

本単元の折れの書き方に関連するものとして1年生では、「の」「そ」で点画の書き方(曲がり・折れ)を、2年生では、「日」「口」等で点画(折れ)の方向に注意して、硬筆で正しく書くことを学習した。3年生では、「日」で毛筆を使用して、折れの書き方への理解を深めた。4年生の書写の学習では、「麦」で画の方向(左払い)を学習した。それぞれの文字ごとに共通課題を意識した自己の課題を決め、字形を整えて書くことを意識して通り組んできた。

事前に「ゆびわ・ひるね・えんそく」の書き方について実態調査を行った。それぞれの文字「ゆ」「び」「わ」「ひ」「る」「ね」「え」「ん」「そ」の折り返しができているかを確認したところ、適切な折れができている割合は「び」が32%、「ひ」が20%、「そ」が48%と「ひ」部分で低い結果となった。「ん」については、84%と比較的高い結果となったが、2度目の折れが曲がりになっている児童も多く見られた。「え」でも同じく2度目の折れが曲がりになっている傾向が見られた。

新出漢字の練習の際には、筆順を確かめて正しく書こうとする姿や、文字を書く際にていねいに書こうとする姿が見られる。しかしながら、ていねいに書くことはできても、一つ一つの文字の点画の種類を意識しながら正しく書くまでには至っていない。話合い活動については、友達の文字のよいところを見付けたり、アドバイスしたりすることができるようになってきている。

【单元観】

平仮名の「折れ」は、毛筆書写学習では初出の学習内容である。平仮名の「折れ」には、二つの特徴がある。一つ目は、漢字の「折れ」に比べて角度が急になることが多いこと、二つ目は、「折り返し」という仮名特有の書き方があるということである。「折れ」は、折れるところで一度止まってから方向を変え、「折り返し」は、一度止めてから、少し重ねて来た道を戻るようにして書くという違いがある。

本単元の「らん」では、平仮名「ん」に「折れ」と「折り返し」の両方が含まれているため、筆使いを比べることができる。また、「折れ」のある平仮名を整えて書くために、画の方向は変わっても、穂先の向きは変わらないということを理解することで、ほかの文字にも応用していくこともできる。

【指導観】

書写委員会のめざす学習者像「文字を大切にし、学んだことを日常生活に生かそうとする」子どもを育てるために、二つのことを大切にして学習活動を進めていく。

一つ目は主体的な対話を通して学びを深め、学んだことを日常に生かせるようにする。主体的に学習を進めることができるように『準備・片付け』『見通し』『課題把握』を大切にする。『準備・片付け』では、4人グループで役割を決めて学習が進められるようにしていく。(例…①筆洗いの準備、②半紙配り(通常は4枚+練習シート1枚)、③教科書配布・回収、④作品(試し書き・まとめ書き)回収)グループ内で役割を変えることにより、学習前の準備を各自が身に付けられるようにし、グループで協力して滞りなく授業が始められるようにする。『見通し』では、学習の始めに「試し書き・練習・アドバイスタイム・まとめ書き・ほめほめタイム」の学習過程を掲示し、1時間の学習の流れをクラス全体で共有し、見通せるようにする。『課題把握』として、試し書きを教科書と見比べて自己の課題を決定し、その後で共通課題を全体で共有し、何のために学ぶのか、何を学ぶのかを明確にする。対話を通して学びを深めることができるように学習内容の視覚化を図る。教科書のQRコンテンツや点画ピース、穂先手袋と穂先マグネット等を使って拡大提示した文字の「折れ」と「折り返し」の筆使いをグループ、全体、学習者と指導者の対話を重ねることで、文字を整える要点を多面的に捉えることができるようになる。また「折れ」の中に、「折り返し」が含まれること等、学習用語に関しても意識して使えるように指導する。

二つ目は評価規準と振り返りの方法を明確にすることである。授業の終末には必ず、試し書きとまとめ書きを見比べて自己評価と相互評価を行い、学習の成果を確かめるようにする。本時の共通課題を意識して評価することにより、一時間の活動の成果を振り返ることができる。3時では五十音表から「折れ」と「折り返し」を見つけることで、普段から気をつけて書くようにし、日常生活に生かせるようにしたい。

なお、試し書きとまとめ書きは台紙に並べて貼り、個別の学習成果を振り返れるようにする。このようにして、書写の時間に学んだことを日常に生かせる子どもが育つようにしていきたい。

9. 指導と評価の計画（全3時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 本 時	○学習の見通しをもつ。 ○「らん」を硬筆と毛筆で試し書きし、自己の課題をもつ。	・本時の学習の流れを知らせる。 「試し書き・練習・アドバイス タイム・まとめ書き・ほめほめ タイム」の短冊を黒板上部に貼 り、学習過程を見通せるよう にする。 ・学習する文字について確認した 後、教科書を見ずに書くよう に促す。 ・毛筆の教科書と見比べ、自己の 課題を赤ペンで書き込むよう に	[主体的に学習に取り 組む態度] 自らの文字と教科書を 見比べ、自己の課題を 見つけている。

	<p>○本時の共通課題を知る。</p> <p>○教科書 p.16 「ん」の二つの文字カードを見比べて話し合う。</p> <p>○「ん」の筆使いの動画で確認する。(25~40秒)</p> <p>○拡大教科書の文字を穂先手袋でなぞったり、穂先マグネットを使用したりして筆使いを確認する。</p> <p>○練習シートで練習してから半紙に「らん」と書く。</p> <p>○「折れ」の筆使いについて友達からアドバイスをもらう。</p> <p>○本時のまとめ書きをする。</p> <p>○本時の成果について確かめる。</p> <p>○次時の予告をする。</p>	<p>指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の「折れ」の筆使いについて考えることを知らせる。 ・「折れ」の部分を比較して形の違いについて全体で話し合い、確認事項を提示する。 <p>(評価ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ん」の筆使いの動画を見せ、一度、筆を止めることを再度確認できるようにする。 ・児童が拡大教科書の文字を、穂先手袋を使って、なぞり書きすることで、穂先の向きは変えないことを、穂先マグネットを貼ることで、折れるところで、一度止まることを全体で確認する。 ・練習シートに練習した後、半紙に書くように促す。 ・黒板に掲示しているポイントに着目して、アドバイスするよう指示する。 ・本時の共通課題に気を付けて書くように促す。 ・試し書きとまとめ書きを見比べて自己評価したり、よくなかった点を相互評価によって見つけ合ったりするように促す。 ・「折れ」と「折り返し」について考えることを知らせる。 	<p>[思考・判断・表現] 「折れ」の形の違いについて話し合っている。</p> <p>[知識・技能] 「折れ」の書き方を理解している。</p> <p>[知識・技能] 「折れ」の筆使いに気を付けて書いている。 (行動観察)</p>
2	○学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で使った短冊を黒板に提示し、本時の学習の流れを知らせる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 前時を想起したり、学</p>

	<p>○自己の課題をもつ。</p> <p>○本時の共通課題を知る。</p> <p>○「折れ」と「折り返し」の筆使いについて考える。</p> <p>○前時のまとめ書きを見て「折れ」と「折り返し」の組み合わせ方について自己評価する。</p> <p>○練習シートで練習した後、半紙に書く。</p> <p>○友達からのアドバイスをもらう。</p> <p>○まとめ書きをする。</p> <p>○本時の成果について確かめる。</p> <p>○次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のまとめ書きを見て、改善したいところに赤ペンでしるしを付けるように促す。 ・「折れ」と「折り返し」の筆使いについて考えることを知らせる。 ・「ん」の点画ピースをマグネットボード上で児童が操作することで、「折れ」と「折り返し」の筆使いを全体で気付けるようにする。 ・前時に書いた文字が本時の目標に合っているかを確かめるように指示する。 ・「折れ」と「折り返し」の筆使いについて気を付けながら書くように促す。 ・本時の目標を中心に相互評価するように指示する。 ・本時の共通課題について、まとめ書きをするように指示する。 ・本時の目標を中心にして、自己評価と相互評価をするように指示する。 ・第1時の試し書きと見比べ、学習の成果を確かめるように指示する。 ・学習シートに「らん」のまとめ書きをして、学習の振り返りを記入する。 ・硬筆で「折れ」「折り返し」のある平仮名を書くことを知らせる。 	<p>習過程を掲示物で振り返ったりして、指示なく自ら学習に取り組もうとしている。</p> <p>[思考・判断・表現] 筆使いについて考えている。 (意見交換の様子)</p> <p>[知識・技能] 筆使いについて考えながら書いている。</p>
--	--	--	--

3	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○「折れ」「折り返し」について確かめる。</p> <p>○「み」「て」「ね」の3つの文字について「折れ」「折り返し」について考える。</p> <p>○「折れ」「折り返し」がある平仮名を五十音表から見つける。</p> <p>○3種類に分類できることに気付く。</p> <p>○学習シートに書き込む。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を「ん」の文字カードを見ながら振り返り、本時は硬筆を用いて、「折れ」「折り返し」のある平仮名を書くことを知らせる。 「折れ」「折り返し」について気を付けることを確認する。 「み」「て」「ね」の文字カードを使い、「折れ」だけの文字、「折り返し」だけの文字、「折れ」「折り返し」の文字があることに気付くようとする。 五十音表で見つけた「折れ」を○で、「折り返し」を△で囲むように指示する。 グループで交流し、「折れ」と「折り返し」について話し合い、3つに分類できるようにする。 分類したものを全体で確かめる。 「折れ」と「折り返し」の違いを意識しながら練習シートに書くように指示する。 「折れ」と「折り返し」について理解できたかどうかを自己評価するよう指示する。 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕 文字カードと本時の目標の掲示物により学習の進め方について理解している。</p> <p>〔思考・判断・表現〕 3つの文字の違いについて考えている。</p> <p>〔知識・技能〕 「折れ」「折り返し」の違いに気付いている。 (意見交流の様子)</p> <p>〔主体的に学習に取り組む態度〕 文字を書く際に、「折れ」「折り返し」の筆使いについて学習したことを生かそうとしている。</p> <p>〔知識・理解〕 「折れ」「折り返し」の違いを意識している。(学習シート)</p>
<p>〔知識・技能①〕 作品観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おおむね満足できる」状況 (B) 評価 「折れ」の筆使いを理解して書いている。 <p>「努力を要する」状況 (C) への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 折れるところで一度止まることがわかるように、穂先の形を入れた練習シートにより、 			

「折れ」の筆使いを実感できるようにする。

〔知識・技能②〕 作品観察（第2時）

「十分満足できる」状況（A）評価

- ・「折れ」と「折り返し」の違いを理解して使い分けて書いている。

「おおむね満足できる」状況（B）評価

- ・「折れ」と「折り返し」の違いを意識し、気を付けて書いている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

- ・点画ピースを操作し、折れるところの画の向きを確認できるようにする。

〔思考・判断・表現①〕 観察（第3時）

「おおむね満足できる」状況（B）評価

- ・「折れ」の筆使いについて、違いを考えながら書いている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

- ・3つの文字のカードを見比べるように助言し、画の向きを意識できるようにする。

〔主体的に学習に取り組む態度①〕 行動

「おおむね満足できる」状況（B）評価

- ・学習材以外の文字の「折れ」にも学習したことを生かそうとしている。

「努力を要する」状況（C）への手立て

- ・折れるところで一度止まることがわかるような印を入れたプリントを渡して、書き方を意識できるようにする。

10. 本時の学習

(1) 本時の目標 (1/3)

毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、筆圧などに注意して書くことができる。

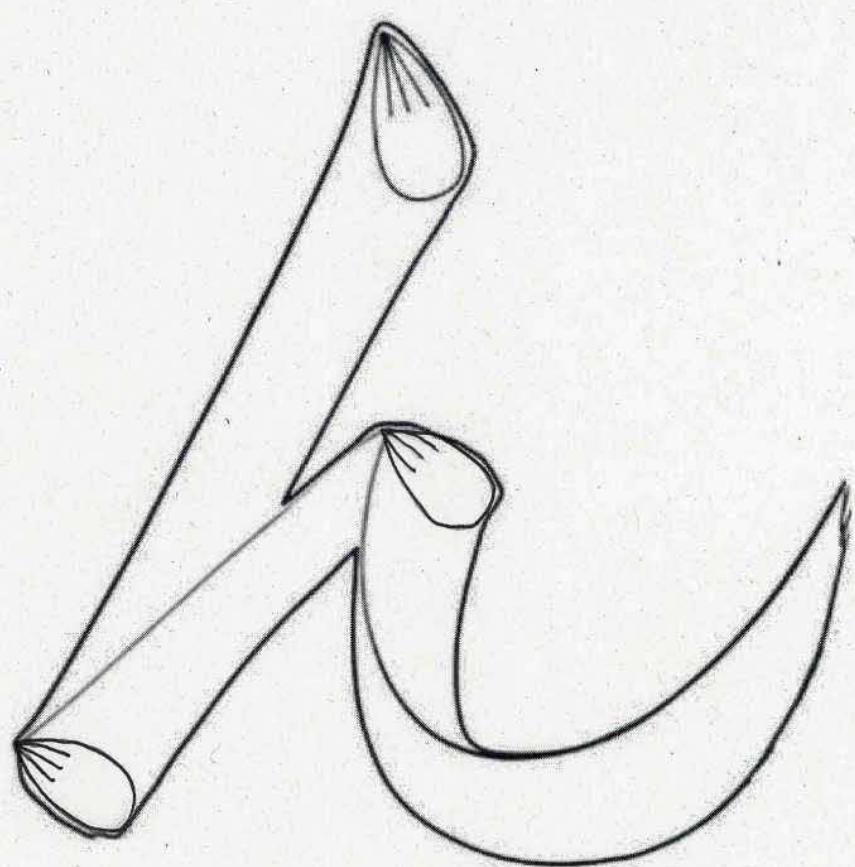
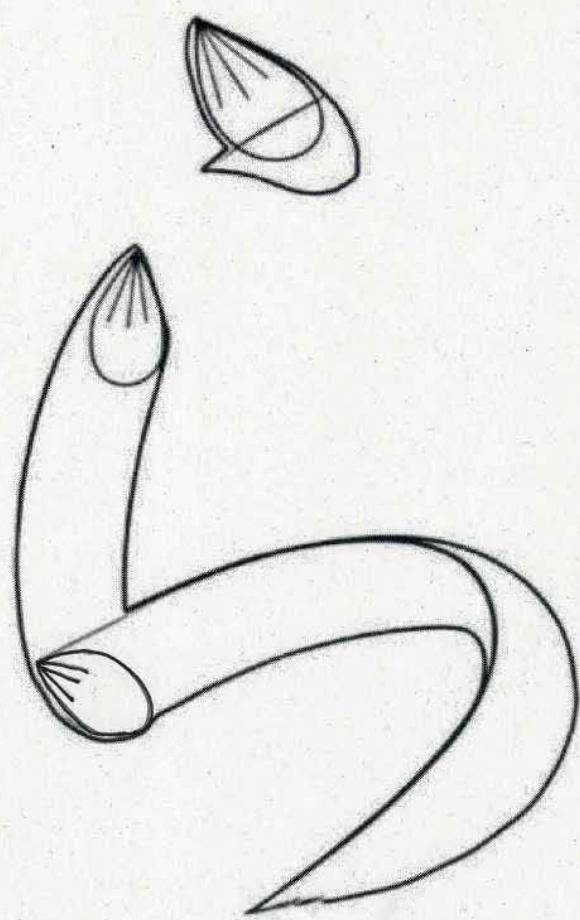
(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1 本時の学習内容について知り、学習の見通しをもつ。 (学習の流れの短冊)	・「ためし書き」「練習」「アドバイスタイム」「まとめ書き」「ほめほめタイム」の短冊を黒板上部に掲示し、本時の学習の流れを把握できるようにする。	
2 「らん」を硬筆と毛筆で試し書きをする。 (学習シート) (半紙)	・空書きで筆順を確認し、教科書を見ないで硬筆と毛筆で「らん」と書くことを指示する。	
3 自己の課題をもつ。	・教科書を見て、毛筆試し書きの直したいところを見つけて赤ペンで一文字につき2か所しるしを付けるように促す。	[主体的に学習に取り組む態度] 自らの文字と教科書を見比べ、自己の課題を見つけている。
4 本時の共通の課題を知る。	・共通課題を提示する。	
平がなの「折れ」の筆使いに気をつけて書こう。		
5 「ん」の二つの文字カードを見比べて話し合う。	・「折れ」の部分を比較して形の違いについて、話し合えるようにする。 ・気付いたことを黒板に提示する。 ① 一度筆を止める。 ② 穂先の向きは変えない。	[思考・判断・表現] 「折れ」の形の違いについて話し合っている。 [知識・技能] 「折れ」の書き方を理解している。
6 「ん」の筆使いの動画で確認する。(25~40秒)	・教科書のQRコンテンツを使い、「折れ」の筆使いについて話し合いながら確認していく。	
7 拡大教科書の文字を穂先手袋でなぞったり、穂先マグネットを使用したりして筆使いを確認する。	・児童が拡大教科書の文字を、穂先手袋を使って、なぞり書きすることで、穂先の向きは変えないことを全体で確認する。 ・拡大教科書に穂先マグネットを貼ることで、折れるところで、一度	

<p>8 練習シートで練習してから半紙に「らん」と書く。</p> <p>9 「折れ」の筆使いについて相互評価する。 (アドバイスタイム)</p> <p>10 本時のまとめ書きをする。</p> <p>11 グループで交流し、本時の成果について確かめる。 (ほめほめタイム)</p> <p>12 次時の予告をする。</p>	<p>止まるごとを全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習シートで練習した後すぐに、半紙に「らん」と書くように促す。 短冊のポイントを基に評価するよう指示する。 本時の学習を念頭に置きながら半紙で2枚書き、1枚選んで名前を書くように指示する。 硬筆や毛筆の「ためし書き」と「まとめ書き」を見比べて自己評価し、グループでよくなつたところを賞賛しあうように促す。 「折れ」と「折り返し」について学習することを知らせる。 	<p>[知識・技能] ・「折れ」の筆使いに気を付けて書いている。 (行動観察)</p>
---	--	---

11 板書計画

ほめほめタイム	まとめ書き	アドバイスタイム	練習			課題見つけ	ためし書き	平がなの「折れ」の筆使いに気をつけて書こう
二枚	練習シート、半紙一枚	穂先の向きは 変えない 一度 筆を止める						



学習シート

月 日

平がな(お)(折れ)

試し書き

まとめ書き



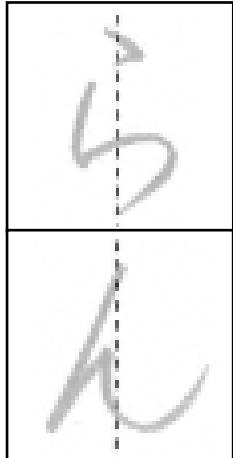
「折れ」の筆使いについて

考えた

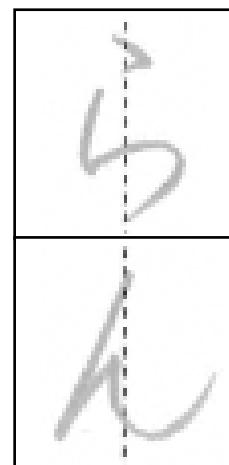
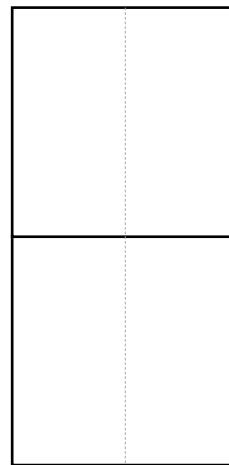
分かった

書けた

「ふりかえり」



(左きき)



(右きき)

